

デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会 衛星放送ワーキンググループ  
第二次取りまとめ(案)について

2025/12/3

一般社団法人 衛星放送協会

該当箇所	意見
8 ページ 2,3 我が国における4K 放送の現況	我が国の4K 衛星放送が、相当のポテンシャルを有していることは、衛星放送協会会員社である「QVC4K」と「SHOP CHANNEL 4K」がBS 右旋への移行後、視聴者からの反応が増加傾向を示していることから明らかであり、4K 衛星放送への視聴者のニーズがあることを示していると考えられる。2018 年 12 月の4K 衛星放送開始以降、「足踏み状態」続いているとされる現状を、前向きな状況に転換していくためにも、改めて、関係各所が一体となって4K 衛星放送の普及に向けて取り組んでいくことが必要と考える。
11 ページ 3.1 テレビを取り巻く新たな市場構造とビジネスモデル再検討の必要性	放送を取り巻く市場環境の変化をふまえ、4K ビジネスに関するビジネスモデルの再検討に際し、BS4K 放送を視聴者にコンテンツを届ける「太い幹」としての役割を担うとしていることは妥当である。BS4K 放送は、非常に簡易に、視聴者が4K コンテンツに触れることのできるメディアであり、ケーブルテレビで再放送も行われていることから、今後も4K コンテンツビジネス入り口として、大きな役割を果たすことが考えられる。
16 ページ 3.5 行政に求められる役割	今回の取りまとめ案で示された放送と配信を組み合わせたビジネスモデルの構築という考えは、4K 放送を行っている放送事業者だけではなく衛星放送事業者にとって、必要なものである。このため、弊協会の会員社が、新たなビジネスモデルを構築することが可能となるよう、衛星放送業界活性化に必要な制度整備を希望する。
18 ページ 4.2 4K コンテンツの制作支援について	国・関係団体が連携した取組を進めることは必要という考えに賛同する。弊協会が WG で述べさせていただいたように、会員社が行っている BS4K を活用した通販ビジネスの維持拡大には4K 放送市場の拡大が必要である。キー局系 BS 放送事業者様の行っている4K 放送の厳しい状況は理解するが、「ステークホルダーの利益にも配慮しつつ、魅力ある4K コンテンツを製作・提供していく企業経営」に努力していただき、4K 放送市場の拡大に役割を果たしていただきたいと考える。国・関係団体が連携した取組には協会としても協力していく考えである。
20 ページ 5 おわりに	2024 年 10 月に公表された本 WG の取りまとめに盛り込まれたインフラコスト低減に関する作業は、緒に就いたばかりでいまだ具体的な効果が見えていない状況である。インフラコスト低減の実現に向けた基幹放送局提供事業者間の交渉について引き続き行政のご支援を要望する。また、インフラコスト低減や CS 放送の高度化につながる2KHEVC 運用に向けた課題整理につ

	いても検討を要望する。こうしたことから、「今後、あらためてフォローアップを行っていくことが必要」としていることは妥当である。
--	--